

2026年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	理学療法士科Ⅰ部	学年	2	開講区分	前期	担当教員			
授業科目名						田原 和樹			
	障がい者スポーツ論	必修・選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	30(2)	授業回数	15

〔授業の学習内容と心構え〕

担当教員は、長年中級パラスポーツ指導員資格を保有し障がい者スポーツ支援を行ってきた理学療法士である。本講義では、理学療法士として障がい者のスポーツ活動が支援できるよう、知識、技術を習得する。また、スポーツに参加する障がい者に対してスポーツの喜びや楽しさを重視したスポーツ導入を支援するための知識を習得することも目的とする。

〔到達目標〕

パラスポーツに関する制度や障がい者の特徴、安全管理などについて学習するとともに、実際のスポーツに参加し、障がい者の方と交流を図る。そして未経験や初心者の方の障がい者に対してスポーツ活動への参加を促すことができる。

〔使用教材、参考文献等〕

教材) 授業内で配布
参考文献) 障がいのある人のスポーツ指導教本 (ぎょうせい、R2)
障がい者スポーツ指導教本 (ぎょうせい、H28)

〔準備学習・時間外学習〕

授業で実施した内容に関して自分の意見を述べられるように復習すること。

回	〔授業概要〕	到達目標(できるようになること)
1	「しょうがい」とは何か パラスポーツに関する諸施策	各障がいに関する法律や障がい者福祉施策とパラスポーツに関する施策を説明できる。
2	コミュニケーションスキルの基礎	パラスポーツ指導者として必要なコミュニケーションスキル・ソーシャルスキルを説明できる。
3	スポーツのインテグリティと指導者に求められる資質	スポーツにおけるインテグリティを理解し、指導者に求められる資質を説明できる。
4	パラスポーツの意義と理念 パラスポーツの意義や理念について理解する	パラスポーツの意義を説明できる。
5	安全管理、応急処置について学習する	安全管理、応急処置の手順を説明できる。
6	障がい者の基礎知識1 (肢体不自由、内部障がい)	肢体不自由、内部障がいの特徴とスポーツ実施上の注意点を説明できる。
7	障がい者の基礎知識1 (視覚障がい、聴覚・音声言語障がい)	視覚障がい、聴覚・音声言語障がいの特徴とスポーツ実施上の注意点を説明できる。
8	各障がいのスポーツ指導上の留意点と工夫 (ボッチャ)	実際に競技を体験し、実施上の留意点や競技特性を説明できる。
9	障がい者の基礎知識 (知的) 知的障がいについて理解する	知的障がいの特徴とスポーツ実施上の注意点を説明できる。
10	障がい者の基礎知識 (精神) 精神障がいについて理解する	精神障がいの特徴とスポーツ実施上の注意点を説明できる。
11	各障がいのスポーツ指導上の留意点と工夫 (シッティングバレーボール)	実際に競技を体験し、実施上の留意点や競技特性を説明できる。
12	パラスポーツ推進の取り組み	地域のパラスポーツ振興の現状について学び、地域で行われている教室や大会に参加する準備ができる。
13	全国障がい者スポーツ大会の概要 全国障がい者スポーツ大会目的と実施内容について	全国障がい者スポーツ大会の目的・意義を学び、未経験者や初心者にはスポーツ参加の動機づけができる。
14	道具について知ろう 義足、車椅子、杖、補装具	パラスポーツでよく用いられる用具を知り、スポーツ実施上の工夫を述べられる。
15	パラスポーツの実際 当事者との交流	パラスポーツを実際に行っている方との触れ合いを通じ、障がい者にとってのスポーツの必要性を説明できる。

〔評価について〕

中間試験 (レポート課題) 40%
期末試験 (レポート課題) 40%
当事者との交流の課題 20%

〔特記事項〕

2026年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	理学療法士科Ⅰ部	学年	2	開講区分	前期	担当教員			
授業科目名	解剖学Ⅱ	必修・選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	30(2)	授業回数	15

〔授業の学習内容と心構え〕

担当教員は大学病院で現役歯科医師として勤務している経験がある。その臨床経験に基づいて、人体の構造と発生を理解するために、構成する各系統のうち運動器系(骨格系)と内臓系の形態的特色と働き、ならびに個体発生の基礎的事項についての知識を習得する講義を行う。

〔到達目標〕

理学療法士として必要な解剖学的知識を習得し、理解する。□

〔使用教材、参考文献等〕

標準理学療法学・作業療法学 解剖学

回	〔授業概要〕	到達目標(できるようになること)
1	消化器概論	消化器を学び理解する
2	消化器：口腔、咽頭	主に嚥下反射を理解する
3	消化器：食道、胃	食道・胃の構造と特徴、働きを理解する
4	消化器：胃、十二指腸、小腸(空腸、回腸)	十二指腸、小腸の構造・機能・特徴を理解する
5	消化器：小腸、大腸	小腸(空腸・回腸、大腸)の構造、機能、特徴を理解する
6	消化器：肝臓	肝臓の構造・機能を理解する
7	泌尿生殖器概論	泌尿生殖器を理解する
8	中間試験	
9	泌尿器：腎臓	尿の生成を理解する
10	泌尿器：膀胱	膀胱の構造・機能を理解する
11	泌尿器：膀胱、尿道	尿道の構造・機能を理解する。
12	泌尿器：尿道	排尿反射を理解する
13	生殖器：男性	男性生殖器の構造、機能を理解する
14	生殖器：女性生殖器	女性生殖器の構造・機能・特徴を理解する
15	期末試験	

〔評価について〕

評価は客観試験および授業中の小テストもしくは課題で行う。
中間試験35%、期末試験35%、確認試験30%で59%以下を不合格とする

〔特記事項〕

毎授業において重要事項については下線を引いたりメモをとること。
必要に応じ配布プリントによる授業を行なう。

2026年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	理学療法士科Ⅰ部	学年	2	開講区分	前期	担当教員			
授業科目名	神経内科学	必修・選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	30(2)	授業回数	15

〔授業の学習内容と心構え〕

担当教員はリハビリテーション病院で現役医師(脳神経外科医)として勤務している経験がある。その臨床経験に基づいて、リハビリテーションの対象となる神経筋疾患の病態と診断を理解し、理学療法アプローチを実施する上でのリスク管理、臨床検査、医学的治療、生活機能とその障害について学習する。

〔到達目標〕

理学療法士に求められる神経内科の疾患・罹患の状態・診断検査～所見の取り方及び評価について客観的に理解が出来る。更に理学療法的治療アプローチに関連付けることができる。

〔使用教材、参考文献等〕

標準理学療法学・作業療法学専門基礎分野
神経内科学 医学書院

〔準備学習・時間外学習〕

専門用語が多い科目のため予め教科書を読み予習しておくこと。また、授業後は復習をし用語の意味を理解することが望ましい。

回	〔授業概要〕	到達目標(できるようになること)
1	オリエンテーション 解剖学(神経系)の復習	本科目の意義と概論を理解できる。
2	中枢神経系の解剖と機能(中枢神経系)	中枢神経系で習得した内容を再度理解できる。
3	中枢神経系の解剖と機能(抹消神経系:脳神経)	抹消神経系(脳神経)の内容を再度理解できる。
4	中枢神経系の解剖と機能(抹消神経系:脊髄神経)	抹消神経系(脊髄神経)の内容を再度理解できる。
5	神経症候を学ぶ 錐体路	意識障害・運動麻痺・錐体外路徴候・不随意運動を理解できる。
6	神経症候を学ぶ 錐体外路・小脳症状	意識障害・運動麻痺・錐体外路徴候・不随意運動を理解できる。
7	神経症候を学ぶ 感覚路1	感覚障害の分布と特徴を理解できる。
8	神経症候を学ぶ 感覚路2	感覚障害の分布と特徴を理解できる。
9	高次脳機能障害(失語・失行)	高次運動障害を理解できる。
10	高次脳機能障害(記憶・認知)	高次運動障害を理解できる。
11	高次脳機能障害(構音・嚥下)	高次運動障害を理解できる。
12	神経学的診察	診察の方法が理解できる
13	神経学的検査	検査方法について理解できる
14	前期まとめ	神経内科学総論について理解できる。
15	期末テスト解説	テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。

〔評価について〕

筆記試験小テスト30点と期末テスト70点の合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。

〔特記事項〕

毎授業において重要事項については下線を引いたりメモをとること。必要に応じ配布プリントによる授業を行なう。

2026年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	理学療法士科Ⅰ部	学年	2	開講区分	後期	担当教員			
授業科目名	神経内科学	必修・選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	30(2)	授業回数	15

〔授業の学習内容と心構え〕

担当教員はリハビリテーション病院で現役医師(脳神経外科医)として勤務している経験がある。その臨床経験に基づいて、リハビリテーションの対象となる神経筋疾患の病態と診断を理解し、理学療法アプローチを実施する上でのリスク管理、臨床検査、医学的治療、生活機能とその障害について学習する。

〔到達目標〕

理学療法士に求められる神経内科の疾患・罹患の状態・診断検査～所見の取り方及び評価について客観的に理解が出来る。更に理学療法的治療アプローチに関連付けることができる。

〔使用教材、参考文献等〕

標準理学療法学・作業療法学専門基礎分野
神経内科学 医学書院

〔準備学習・時間外学習〕

専門用語が多い科目のため予め教科書を読み予習しておくこと。また、授業後は復習をし用語の意味を理解することが望ましい。

回	〔授業概要〕	到達目標(できるようになること)
1	オリエンテーション 解剖学(神経系)の復習	本科目の意義と概論を理解できる。
2	中枢神経系の解剖と機能(中枢神経系)	中枢神経系で習得した内容を再度理解できる。
3	中枢神経系の解剖と機能(抹消神経系:脳神経)	抹消神経系(脳神経)の内容を再度理解できる。
4	中枢神経系の解剖と機能(抹消神経系:脊髄神経)	抹消神経系(脊髄神経)の内容を再度理解できる。
5	神経学的診断法と評価	神経が鵜的診断と画像診断や各種検査法を理解できる。
6	神経症候を学ぶ	意識障害・運動麻痺・錐体外路徴候・不随意運動を理解できる。
7	運動失調及び感覚障害を学ぶ	運動失調の評価から感覚障害の特徴を理解できる。
8	錐体外路兆候・不随意運動	錐体外路兆候を把握し錐体外路の障害を理解できる。
9	運動失調	高次脳機能障害における各症状について理解できる。
10	感覚障害の特徴	感覚障害の分布と特徴を理解できる。
11	高次脳機能障害(失語症)	言語機能障害の特徴と、診断を理解できる。
12	高次脳機能障害(失認)	失認の概念と分類及びリハビリテーションを理解できる。
13	高次脳機能障害(失行)	高次運動障害を理解できる。
14	高次脳機能障害(記憶障害)	記憶と記憶障害を理解できる。
15	期末テスト 解説	テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。

〔評価について〕

評価は筆記試験で行い、評価は学則規定に準ずる。
小テスト30点
期末試験70点

〔特記事項〕

毎授業において重要事項については下線を引いたりメモをとること。
必要に応じ配布プリントによる授業を行なう。

2026年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 理学療法士科Ⅰ部	学年	2	開講区分	前期	担当教員 渡辺 寛			
授業科目名 内科学	必修・選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	30(2)	授業回数	15

〔授業の学習内容と心構え〕

担当教員はリハビリテーション病院で現役医師（脳神経外科医）として勤務している経験がある。その臨床経験に基づいて、リハビリテーションの対象となる内科疾患の病態、診断、理学療法アプローチに対する授業を展開する。

〔到達目標〕

理学療法士に求められる内科の疾患・罹患の状態・診断検査～所見の取り方及び評価について客観的に理解が出来る。

〔使用教材、参考文献等〕

標準理学療法学・作業療法学専門基礎分野
内科学（第3版） 医学書院

〔準備学習・時間外学習〕

専門用語が多い科目のため予め教科書を読み予習しておくこと。また、授業後は復習をし用語の意味を理解することが望ましい。

回	〔授業概要〕	到達目標(できるようになること)
1	内科学とは	内科学にとってのリハビリテーションの意義を理解できる
2	症候学	病的症候について理解できる
3	呼吸器疾患 1	呼吸器の解剖・生理について理解できる
4	呼吸器疾患 2	呼吸器疾患について理解できる
5	呼吸器疾患 3	呼吸器疾患について理解できる
6	循環器疾患 1	循環器の解剖・生理について理解できる
7	循環器疾患 2	循環器疾患について理解できる
8	循環器疾患 3	循環器疾患について理解できる
9	消化器疾患 1	消化器の解剖・生理について理解できる
10	消化器疾患 2	消化器疾患について理解できる
11	消化器疾患 3	消化器疾患について理解できる
12	肝・胆・膵疾患 1	腹部実質臓器の解剖・生理について理解できる
13	肝・胆・膵疾患 2	腹部実質臓器の疾患について理解できる
14	前期まとめ	前期まとめ
15	期末テスト	テストにより理解度をふりかえる

〔評価について〕

評価は筆記試験で行う。
筆記試験小テスト30点と期末テスト70点の合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。

〔特記事項〕

毎授業において重要事項については下線を引いたりメモをとること。
必要に応じ配布プリントによる授業を行なう。

2026年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	理学療法士科Ⅰ部	学年	2	開講区分	後期	担当教員			
授業科目名	内科学	必修・選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	30(2)	授業回数	15

〔授業の学習内容と心構え〕

担当教員はリハビリテーション病院で現役医師(脳神経外科医)として勤務している経験がある。その臨床経験に基づいて、リハビリテーションの対象となる内科疾患の病態、診断、理学療法アプローチに対する授業を展開する。

〔到達目標〕

理学療法士として必要・不可欠な内科学各疾患について診察・検査・診断について理解する

〔使用教材、参考文献等〕

標準理学療法学・作業療法学 内科学

〔準備学習・時間外学習〕

専門用語が多い科目のため予め教科書を読み予習しておくこと。また、授業後は復習をし用語の意味を理解することが望ましい。

回	〔授業概要〕	到達目標(できるようになること)
1	血液疾患 1	各疾患について理解する
2	血液疾患 2	各疾患について理解する
3	代謝疾患 1	各疾患について理解する
4	代謝疾患 2	各疾患について理解する
5	内分泌疾患 1	各疾患について理解する
6	内分泌疾患 2	各疾患について理解する
7	腎・泌尿器疾患 1	各疾患について理解する
8	腎・泌尿器疾患 2	各疾患について理解する
9	アレルギー・膠原病 1	各疾患について理解する
10	アレルギー・膠原病 1	各疾患について理解する
11	感染症	感染症について理解する
12	血管疾患	血管疾患について理解する
13	腫瘍性疾患	腫瘍性疾患について理解する
14	まとめ	
15	期末試験	

〔評価について〕

期末試験70%、小テスト30%、59%以下を不合格とする。

〔特記事項〕

授業内容・日時変更あり リモート授業あり

2026年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 理学療法士科Ⅰ部	学年 2	開講区分 前期	担当教員 渡邊 利明			
授業科目名 整形外科学	必修・選択 必修	授業形態 講義	時間数(単位)	30(2)	授業回数	15

〔授業の学習内容と心構え〕

整形外科学に精通した医師が、授業を担当。
 整形外科疾患について、特に運動器疾患の診断、治療・後療法、予防法について教授する。
 スポーツ医学の視点からも言及するので、興味、関心を持って望んで欲しい。

〔到達目標〕

整形外科疾患のうち、全身性疾患と胸郭より上位の各疾患について、疫学、症状、診断、治療について理解できる。

〔使用教材、参考文献等〕

標準 整形外科学：医学書院

〔準備学習・時間外学習〕

運動器に関する既習の解剖学、生理学、運動学等の知識を復習し整理した上で、授業に臨んで欲しい。

回	〔授業概要〕	到達目標(できるようになること)
1	骨の構造、生理、生化学 骨の発生、成長、維持	骨の構造からその病態まで理解できる。
2	関節の構造、生理、生化学	関節の構造からその病態まで理解できる。
3	筋・神経の構造、生理、生化学	筋・神経の構造からその病態まで理解できる。
4	感染性疾患	運動器に関わる感染性疾患の病態を理解できる。
5	関節リウマチとその類似疾患	関節リウマチと類似疾患の病態を理解できる。
6	変形性関節症とその類似疾患	変形性関節症と類似疾患の病態を理解できる。
7	四肢循環障害	四肢の循環障害の病態を理解できる。
8	中間テスト 解説	テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。
9	骨系統疾患 先天性異常症候群	骨系統疾患と先天性疾患の病態を理解できる。
10	代謝性骨疾患	代謝性骨疾患の病態を理解できる。
11	良性骨腫瘍	骨・軟骨の良性腫瘍の病態を理解できる。
12	悪性骨腫瘍	骨・軟骨の悪性腫瘍の病態を理解できる。
13	神経疾患・筋疾患	運動器の神経・筋系疾患の病態を理解できる。
14	末梢神経損傷	末梢神経疾患の病態を理解する。
15	期末テスト 解説	テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。

〔評価について〕

評価は記述式の筆記試験で行う。
 筆記試験は中間テスト(50点)と期末テスト(50点)の合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。

〔特記事項〕

授業では自筆のノートを作成し、重要事項については復習すること。各テストは、その作成したノートの参照を可として記述式試験を行う。

2026年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	理学療法士科Ⅰ部	学年	2	開講区分	後期	担当教員			
授業科目名	整形外科学	必修・選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	30(2)	授業回数	15

〔授業の学習内容と心構え〕

整形外科学に精通した医師が、授業を担当。
 整形外科疾患について、特に運動器疾患の診断、治療・後療法、予防法について教授する。
 スポーツ医学の視点からも言及するので、興味、関心を持って望んで欲しい。

〔到達目標〕

各整形外科疾患を、全身性疾患から胸郭より上位の各疾患について、概要、疫学、症状、診断、治療について理解できる。

〔使用教材、参考文献等〕

標準 整形外科学：医学書院

〔準備学習・時間外学習〕

専門用語が多い科目のため予め教科書を読み予習しておくこと。また、授業後は復習をし用語の意味を理解することが望ましい。

回	〔授業概要〕	到達目標(できるようになること)
1	肩疾患	六つの複合関節である肩関節の運動機能とその疾患を理解できる。
2	肘疾患	上肢機能の中核を成す肘関節の運動機能とその疾患を理解できる。
3	手疾患	手掌・指を使つての微細な運動機能とその疾患を理解できる。
4	頸部疾患	頭部を支え、脊髄を内包する頸部の神経構造とその運動器疾患を理解できる。
5	胸部・腰部疾患	胸腔、腹腔、骨盤腔内に重要臓器を抱え、その運動器疾患を理解できる。
6	股関節疾患	最大関節である股関節の運動機能とその疾患を理解できる。
7	膝疾患	歩行機能の中核を成す膝関節の運動機能とその疾患を理解できる。
8	足疾患	体の支持・歩行を担う足部の運動機能とその疾患を理解できる。
9	中間テスト 解説	テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。
10	外傷総論	骨折や脱臼を含む外傷の治療に関する概要を理解できる。
11	軟部損傷	骨折・脱臼以外の運動器に関わる外傷の治療について理解できる。
12	上肢の骨折・脱臼	上肢の骨折と脱臼について、その外傷機転から治療法について理解できる。
13	骨盤・下肢の骨折・脱臼	骨盤・下肢の骨折と脱臼について、その外傷機転から治療法について理解できる。
14	脊椎・脊髄損傷	脊椎損傷・脊髄損傷の概要とその外傷機転からリハビリテーションまでの治療について理解できる。
15	期末テスト 解説	テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。

〔評価について〕

評価は筆記試験で行う。
 筆記試験は中間テスト(50点)と期末テスト(50点)の合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。

〔特記事項〕

授業中に自筆のノートを取り、重要事項について復習すること。各テストでは、その作成したノートを参照しての記述式試験を行う。

2026年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	理学療法士学科 部	学年	2	開講区分	前期	担当教員			
授業科目名		必修・選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	15(1)	授業回数	8
	薬理学								

〔授業の学習内容と心構え〕

薬剤師免許保有者による授業である。薬理学では身体的、精神的疾患の治療・改善に用いられる薬物の作用、副作用などを講義する。特に理学療法士の役割が重要な疾患・障害の治療薬やスポーツ関連の薬物の理解を図る。

〔到達目標〕

- 1) 薬理学の基礎知識を学び、正しく理解できる。
- 2) 種々の疾患・障害における薬の作用・副作用・有害事象を把握できる。
- 3) 理学療法士として臨床現場で学んだ知識を活用して、治療・援助計画を立てることができる。

〔使用教材、参考文献等〕

授業資料を公表し、適宜にホワイトボード板書で理解を深める。

〔準備学習・時間外学習〕

事前に資料などを熟読し、薬理学関連用語を予習しておくこと。生理学・病理学や生化学的な事象に関しても理解度を深めるなど、広範囲に関連付けて勉学・復習すること。

回	〔授業概要〕	到達目標(できるようになること)
1	くすりとは何か、薬理学とは何か	くすり・薬理学の概念を理解する
2	くすりの作用機序、動態と薬効、副作用、薬物相互作用	くすり・薬理学に関する基礎知識を理解する
3	神経の構造、機能、分類と末梢神経系の機能	末梢神経系、特に交感神経・副交感神経・知覚神経・運動神経に関する疾患と薬物療法を理解する
4	中枢神経作用薬—鎮静催眠薬、向精神薬、神経変性疾患治療薬、運動・スポーツの中枢作用など—	中枢神経系の各種疾患とその薬物療法を理解する
5	各器官・臓器に関する疾患とその薬物療法 (I)	循環器・呼吸器・消化器・泌尿器などの疾患とその薬物療法を理解する
6	各器官・臓器に関する疾患とその薬物療法 (II)	感覚器・内分泌代謝系・運動器系などの疾患とその薬物療法を理解する
7	炎症・痛み、がん・感染症に関連した疾患・障害とその薬物療法	炎症と痛みを伴う各種疾患や運動・スポーツ障害とその薬物療法を理解する
8	薬理学的知識の確認(期末試験)と解説	国家試験レベルの問題を解き理学療法士として必要な薬理学的知識を習得する

〔評価について〕

小テスト(15点×2回)+期末テスト(70点)=100点満点で評価する。

〔特記事項〕

3回目、6回目終了時に小テストを行う。7回目授業と8回目期末テスト・解説は同日の連続した2コマで行う。

2026年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	理学療法士科Ⅰ部	学年	2	開講区分	前期	担当教員			
授業科目名	病態運動学	必修・選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	30(2)	授業回数	15

〔授業の学習内容と心構え〕

理学療法の対象となる疾病がもたらす機能障害について理解する。さらに運動障害や異常歩行などの動作障害について、その特徴および発生メカニズムの基本的知識を習得する。授業は臨床で理学療法士として従事している教員により行われ、実際の患者における機能障害や異常動作について動画なども多く取り入れ、より深く疾病の理解をしていく。

〔到達目標〕

- ・様々な疾患や障害によって生じる活動・動作制限を機能障害レベルでとらえることができる。
- ・運動障害の原因となる病態について説明できる。
- ・代表的な疾患の特徴的な運動障害についてその特徴を挙げて説明できる。

〔使用教材、参考文献等〕

参考図書：病態運動学（医学書院）

〔準備学習・時間外学習〕

解剖学・生理学・運動学の内容も含まれるため用語などはそれぞれの教科書を参照すること。

回	〔授業概要〕	到達目標(できるようになること)
1	病態運動学の概要 小テスト	病態運動学と障害構造の関係性を説明できる。 動作解析のパラメータについて理解できる。
2	機能障害レベル 筋力 小テスト	筋力の異常と機能障害への影響が理解できる。
3	機能障害レベル 関節運動 小テスト	関節運動の異常と機能障害への影響が理解できる。
4	機能障害レベル 随意運動 小テスト	随意運動の異常と機能障害への影響が理解できる。
5	機能障害レベル 反射・感覚・協調性 小テスト	反射・感覚・協調性の異常と機能障害への影響が理解できる。
6	機能障害レベル 姿勢制御・バランス機能 小テスト	姿勢制御・バランス機能の異常と機能障害への影響が理解できる。
7	機能的制限レベル 歩行の異常 小テスト	歩行の異常と機能障害との関係が理解できる。
8	中枢神経系疾患の病態と運動障害（片麻痺） 小テスト	脳卒中による随意運動障害と片側性障害に基づく運動障害を理解できる。
9	中枢神経系疾患の病態と運動障害（パーキンソン病） 小テスト	パーキンソン病の病態に基づく運動障害を理解できる。
10	中枢神経系疾患の病態と運動障害（失調症） 小テスト	小脳障害に基づく協調運動障害が要因となる機能制限を理解できる。
11	運動器疾患の病態と運動障害（上肢） 小テスト	上肢における代表的な疾患の病態と機能障害や運動障害の関連を理解できる。
12	運動器疾患の病態と運動障害（下肢1） 小テスト	下肢における代表的な疾患の病態と機能障害や運動障害の関連を理解できる。
13	運動器疾患の病態と運動障害（下肢2） 小テスト	下肢における代表的な疾患の病態と機能障害や運動障害の関連を理解できる。
14	運動器疾患の病態と運動障害（脊柱） 小テスト	脊柱における代表的な疾患の病態と機能障害や運動障害の関連を理解できる。
15	期末テスト 解説	テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。

〔評価について〕

出席15%
小テスト45%
期末テスト40%

〔特記事項〕

毎授業において重要事項については下線を引いたりメモをとること。
必要に応じ配布プリントによる授業を行なう。

2026年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	理学療法士科Ⅰ部	学年	2	開講区分	後期	担当教員			
授業科目名	関節の運動学	必修・選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	30(2)	授業回数	15

〔授業の学習内容と心構え〕

基礎運動学で学んだ知識をさらに発展・統合させることを目標に、関節ごとに運動のメカニズムを理解していく。また、理学療法の実務経験のある教員により、患者動画や実技も多く取り入れ、代表的疾患の運動障害も理解できるよう授業を行なう。学生は積極的に授業に参加し、実習や現場で活用していただきたい。

〔到達目標〕

- ・各関節の構造的特徴と関節包内運動、骨運動、筋機能について理解する。
- ・運動学専門用語を正確に使用して、関節運動や姿勢、動作を表現できるようになる。
- ・実技や患者動画の観察を通して、関節運動学の知識と理解を深める。

〔使用教材、参考文献等〕

(参考) PT・OTのための運動学テキスト

〔準備学習・時間外学習〕

専門用語が多い科目のため運動学や解剖学の教科書で確認すること。授業後は復習をし用語の意味を理解することが望ましい。

回	〔授業概要〕	到達目標(できるようになること)
1	関節運動学の基本的概念	関節運動学を理解するために必要な用語や基本的概念について学ぶ。
2	肩甲帯・肩1 小テスト	肩甲帯の骨・関節・筋の働きを理解し、正常・異常アライメントと動作評価ができるようになる。
3	肩甲帯・肩2 小テスト	肩甲上腕関節の構造を理解し、正常・異常アライメントと動作評価ができるようになる。
4	肘・前腕 小テスト	肘関節の機能解剖・評価について理解する。
5	手関節・手 小テスト	手関節の機能解剖・評価について理解する。
6	骨盤帯・股1 小テスト	骨盤・大腿骨の構造、関節周囲の靭帯と働きについて理解する。
7	骨盤帯・股2 小テスト	股関節周囲筋の機能を理解し、さらに正常アライメントや動作評価ができるようになる。
8	膝・下腿1 小テスト	膝関節の構造を理解する。また、関節周囲の靭帯や筋の働きを理解する。
9	膝・下腿2 小テスト	膝関節の正常・異常アライメントや動作評価ができるようになる。
10	足・足関節1 小テスト	足関節・足部を構成する関節の構造や足のアーチ機能、足関節周囲の筋の働きについて理解する。
11	足・足関節2 小テスト	足・足関節の正常・異常アライメントや動作評価ができるようになる。
12	脊柱1 小テスト	脊柱の構造と靭帯や筋の働きについて理解する。
13	脊柱2 小テスト	脊柱の正常・異常アライメントや動作評価ができるようになる。
14	頭部・胸郭 小テスト	頭部・胸郭の骨・関節・筋の働きを理解し、正常・異常アライメントと動作評価ができるようになる。
15	期末試験と解答解説(復習)	テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。

〔評価について〕

出席回数1回につき1点、小テスト45点(14回に分けて実施)、期末テスト40点とし、合計100点とする。
合計が60点未満の場合は再試験とする。

〔特記事項〕

毎授業において配布資料による授業を行う。
重要事項については下線を引いたりメモをとること。

2026年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	理学療法士科Ⅰ部	学年	2	開講区分	前期	担当教員			
授業科目名		必修・選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	30(2)	授業回数	15
理学療法検査・測定法					田原 和樹				

〔授業の学習内容と心構え〕

担当教員は長年、総合病院において様々な疾患に対するリハビリテーションの実践に携わってきた理学療法士である。本講義では、臨床実習に向けて疾患の理解を深め、理学療法評価プログラムの検査・測定の選別ができることを学ぶ。

〔到達目標〕

臨床で必要な検査・測定の知識を身に付ける。
緊張感のある状況で検査・測定の選別を行なうことができるようにする。

〔使用教材、参考文献等〕

理学療法評価学 第6版 金原出版
新・徒手筋力検査法 第10版 協同医書出版社 メモ帳・筆記用具・白衣

回	〔授業概要〕	到達目標(できるようになること)
1	オリエンテーション / 錐体路系-1	基礎医学の内容との関連づけて、神経系評価に関する方法論を理解する。
2	錐体路系-2	基礎医学の内容との関連づけて、神経系評価に関する方法論を理解する。
3	運動麻痺検査	基礎医学の内容との関連づけて、神経系評価に関する方法論を理解する。
4	小テスト①/反射弓	基礎医学の内容との関連づけて、神経系評価に関する方法論を理解する。
5	深部腱反射・表在反射・病的反射	基礎医学の内容との関連づけて、神経系評価に関する方法論を理解する。
6	小テスト②/筋緊張	基礎医学の内容との関連づけて、神経系評価に関する方法論を理解する。
7	Modified Ashworth Scale	基礎医学の内容との関連づけて、神経系評価に関する方法論を理解する。
8	小テスト③/上行性伝導路	基礎医学の内容との関連づけて、神経系評価に関する方法論を理解する。
9	上行性伝導路の評価-1	基礎医学の内容との関連づけて、神経系評価に関する方法論を理解する。
10	上行性伝導路の評価-2	基礎医学の内容との関連づけて、神経系評価に関する方法論を理解する。
11	小テスト④/脳神経	基礎医学の内容との関連づけて、神経系評価に関する方法論を理解する。
12	脳神経検査	基礎医学の内容との関連づけて、神経系評価に関する方法論を理解する。
13	総復習	基礎医学の内容との関連づけて、神経系評価に関する方法論を理解する。
14	期末試験対策	基礎医学の内容との関連づけて、神経系評価に関する方法論を理解する。
15	試験対策/期末試験	テストにより授業内容の習熟度を把握する。

〔評価について〕

小テスト (40点: 10点×4回)、期末試験 (60点) で評価を行う。評価方法は学則規定に準ずる。

〔特記事項〕

- ・毎授業において重要事項については下線を引いたりメモをとること。
- ・自学習で使用している用具・PCやタブレット等のデバイスを持参すること。

2026年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	理学療法士科Ⅰ部	学年	2	開講区分	後期	担当教員			
授業科目名		必修・選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	30(2)	授業回数	15
理学療法検査・測定法					田原 和樹				

〔授業の学習内容と心構え〕

担当教員は長年、医療機関において様々な疾患に対するリハビリテーションの実践に携わってきた理学療法士である。本講義では、臨床実習に向けて疾患の理解を深め、理学療法評価プログラムの検査・測定の見分けができることを学ぶ。

〔到達目標〕

臨床に必要な検査法、測定法の知識を身に付ける。
検査結果の解釈ができるようにする。
検査時のリスク管理ができるようにする。

〔使用教材、参考文献等〕

リハビリテーション基礎評価学 第2版 羊土社

回	〔授業概要〕	到達目標(できるようになること)
1	脳血管障害総論	脳血管障害に関する知識を深め、神経学的検査の必要性を理解する。
2	ブルンストロームステージ	ブルンストロームステージの内容、検査時に必要な知識を理解する。
3	筋緊張検査	筋緊張の発生する仕組み、検査の内容、解釈の方法を理解する。
4	SIAS	SIASの内容、検査時に必要な知識を理解する。
5	脳神経検査	脳神経検査の内容、検査結果の解釈を理解する。
6	高次脳機能検査	高次脳機能検査の内容、検査結果の解釈を理解する。
7	協調性検査	協調性検査の内容、検査結果の解釈を理解する。
8	中間テスト	7回目までの効果判定
9	姿勢バランス検査	FRS、FBSの検査概要、方法を理解する
10	姿勢観察	背臥位・座位・立位の観察方法を理解する
11	動作分析	起居動作・立ち上がり動作の分析方法を理解する。
12	持久力検査	MET s、運動負荷試験、ボルグスケールを理解する
13	呼吸・循環検査	肺機能検査、スパイログラム、フローボリューム曲線について理解する
14	呼吸・循環検査	心電図、胸部X線、血液検査、心エコーについて理解する
15	期末テスト	14回目までの効果判定

〔評価について〕

評価は実技試験で行う。
実技試験は第1回実技確認試験(50点)と第2回実技確認試験(50点)の合計100点で評価する。
評価は学則規定に準ずる。

〔特記事項〕

毎授業において重要事項については下線を引いたりメモをとること。
必要に応じ配布プリント、資料の配信による授業を行なう。

2026年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	理学療法士科Ⅰ部	学年	2	開講区分	前期	担当教員			
授業科目名		必修・選択	必修	授業形態	実技	時間数(単位)	30(1)	授業回数	15
	理学療法検査・測定法実習Ⅰ								

〔授業の学習内容と心構え〕

担当教員は長年、総合病院において様々な疾患に対するリハビリテーションの実践に携わってきた理学療法士である。本講義では、臨床実習に向けて疾患の理解を深め、理学療法評価プログラムの優先順位をより実践的に学ぶことを目的とする。

〔到達目標〕

臨床に必要な検査・測定 of 技術を身に付ける。
緊張感のある状況で検査・測定の選別を行なうことができるようにする。

〔使用教材、参考文献等〕

理学療法評価学 第6版 金原出版
新・徒手筋力検査法 第10版 協同医書出版社 メモ帳・筆記用具・白衣

回	〔授業概要〕	到達目標(できるようになること)
1	Brunnstrom検査-1	①各検査の手順・検査肢位を理解する ②検査結果の判定、説明方法を理解する
2	Brunnstrom検査-2	①各検査の手順・検査肢位を理解する ②検査結果の判定、説明方法を理解する
3	深部腱反射	①各検査の手順・検査肢位を理解する ②検査結果の判定、説明方法を理解する
4	病的反射	①各検査の手順・検査肢位を理解する ②検査結果の判定、説明方法を理解する
5	表在反射	①各検査の手順・検査肢位を理解する ②検査結果の判定、説明方法を理解する
6	筋緊張検査	①各検査の手順・検査肢位を理解する ②検査結果の判定、説明方法を理解する
7	実技検査総復習	第1～6回の授業内容の総復習を行い、理解度を明確にする。
8	中間テスト	第1～6回の授業内容の中間テストを行い、理解度を明確にする。
9	深部感覚検査	①各検査の手順・検査肢位を理解する ②検査結果の判定、説明方法を理解する
10	表在感覚検査	①各検査の手順・検査肢位を理解する ②検査結果の判定、説明方法を理解する
11	協調性検査	①各検査の手順・検査肢位を理解する ②検査結果の判定、説明方法を理解する
12	SIAS	①各検査の手順・検査肢位を理解する ②検査結果の判定、説明方法を理解する
13	実技試験対策	授業内容を総復習し、知識を整理することができる。
14	実技試験	前期の理解度の内容を明確にする。
15	振り返り／模擬症例演習	期末試験の振り返りを行う。 模擬症例を見立てて、一連の流れを通して評価を行う。

〔評価について〕

評価は実技試験(中間・期末)で行う。
中間試験(50点)と期末試験(50点)の合計100点
で評価する。評価は学則規定に準ずる。

〔特記事項〕

毎授業において重要事項については下線を引いたりメモをとること。
必要に応じ配布プリント、資料の配信による授業を行なう。

2026年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	理学療法士科Ⅰ部	学年	2	開講区分	後期	担当教員			
授業科目名		必修・選択	必修	授業形態	実技	時間数(単位)	30(1)	授業回数	15
		田原 和樹							

〔授業の学習内容と心構え〕

担当教員は長年、総合病院において様々な疾患に対するリハビリテーションの実践に携わってきた理学療法士である。本講義では、臨床実習に向けて疾患の理解を深め、理学療法評価プログラムの優先順位をより実践的に学ぶことを目的とする。

〔到達目標〕

臨床で必要な検査法、測定法の技術を身に付ける。
検査結果の解釈ができるようにする。
検査時のリスク管理ができるようにする。

〔使用教材、参考文献等〕

リハビリテーション基礎評価学 第2版 羊土社

回	〔授業概要〕	到達目標(できるようになること)
1	脳血管障害総論	脳血管障害に関する知識を深め、神経学的検査の必要性を理解する。
2	ブルンストロームステージ	ブルンストロームステージの内容、検査時に必要な知識を理解する。
3	筋緊張検査	筋緊張の発生する仕組み、検査の内容、解釈の方法を理解する。
4	SIAS	SIASの内容、検査時に必要な知識を理解する。
5	脳神経検査	脳神経検査の内容、検査結果の解釈を理解する。
6	高次脳機能検査	高次脳機能検査の内容、検査結果の解釈を理解する。
7	協調性検査	協調性検査の内容、検査結果の解釈を理解する。
8	中間テスト	7回目までの効果判定
9	姿勢バランス検査	FRS、FBS
10	姿勢観察	背臥位・座位・立位の観察方法を理解する
11	動作分析	起居動作・立ち上がり動作の分析方法を理解する。
12	持久力検査	6分間歩行テスト、シャトルウォーキングを実施する
13	呼吸・循環検査	スパイロメトリー、打診、聴診を実施する
14	呼吸・循環検査	心電図、胸部X線、血液検査、心エコーについて理解する
15	期末テスト	14回目までの効果判定

〔評価について〕

評価は実技試験で行う。
実技試験は第1回実技確認試験(50点)と第2回実技確認試験(50点)の合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。

〔特記事項〕

毎授業において重要事項については下線を引いたりメモをとること。
必要に応じ配布プリント、資料の配信による授業を行なう。

2026年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	理学療法士科Ⅰ部	学年	2	開講区分	後期	担当教員			
授業科目名	動作分析法	必修・選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	30(2)	授業回数	15

〔授業の学習内容と心構え〕

担当教員は、長年臨床において動作分析の臨床と研究に従事してきた理学療法士である。本講義は、動作分析に必要な動作観察の方法を学習し動作分析をする流れを学び、正常動作のパターンを知り異常動作に気づく視点を身に付ける講義とする。

〔到達目標〕

- ・動作観察→動作分析の流れを理解し、その過程を表現できる
- ・基本的動作の正常動作パターンが理解できる

〔使用教材、参考文献等〕

- 「動作分析 臨床活用講座」(MEDICAL VIEW)

〔準備学習・時間外学習〕

<準備> 日頃から動作の特徴を捉える癖をつける

<時間外学習> 講義内容と小テストの振り返りを行い、知識の再確認をする

回	〔授業概要〕	到達目標(できるようになること)
1	【イントロダクション】 ～動作・運動の診かた、動作分析とは～ ～動作分析に活用するバイオメカニクス①～	動作観察と分析の流れを理解できる バイオメカニクスの基本原理(=力学)の基礎を理解できる
2	【イントロダクション】 ～動作分析に活用するバイオメカニクス②～ 【寝返り動作】～正常動作の理解～	バイオメカニクスの基本原理(=力学)の基礎を理解できる 寝返り動作の正常パターンを理解できる
3	【寝返り動作】～動作を可能にするメカニズム①～	寝返り動作に影響を与える要因を理解できる
4	【寝返り動作】～動作を可能にするメカニズム②～ ～スティックピクチャーで記録する～	寝返り動作に影響を与える要因を理解できる 寝返り動作の観察結果を図に示すことができる
5	◆確認試験①◆ 【起き上がり動作】～正常動作の理解～	起き上がり動作の正常パターンを理解できる
6	◇返却と解説①◇ 【起き上がり動作】～動作を可能にするメカニズム①～	起き上がり動作に影響を与える要因を理解できる
7	【起き上がり動作】～動作を可能にするメカニズム②～ ～スティックピクチャーで記録する～	起き上がり動作に影響を与える要因を理解できる 起き上がり動作の観察結果を図に示すことができる
8	◆確認試験②◆ 【立ち上がり動作】～正常動作の理解～	立ち上がり動作の正常パターンを理解できる
9	◇返却と解説②◇ 【立ち上がり動作】～動作を可能にするメカニズム①～	立ち上がり動作に影響を与える要因を理解できる
10	【立ち上がり動作】～動作を可能にするメカニズム②～ ～スティックピクチャーで記録する～	立ち上がり動作に影響を与える要因を理解できる 立ち上がり動作の観察結果を図に示すことができる
11	【歩行動作】～正常動作の理解～	歩行動作の正常パターンを理解できる
12	【歩行動作】～動作を可能にするメカニズム①～	歩行動作に影響を与える要因を理解できる
13	【歩行動作】～動作を可能にするメカニズム②～	歩行動作に影響を与える要因を理解できる
14	◆◆期末試験◆◆(60分)	試験を通して自分の知識の深さを理解する
15	◇◇返却と解説◇◇ 講義のまとめ、振り返り	講義を振り返り、理学療法における動作分析の過程を再考する

〔評価について〕

- 確認試験①
- 確認試験② ※①②合計50点
- 期末試験(50点)

〔特記事項〕

実施予定日・内容は進捗状況により変更する場合があります

2026年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	理学療法士科Ⅰ部	学年	2	開講区分	前期	担当教員			
授業科目名	運動療法学	必修・選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	30(2)	授業回数	15
						安田 和弘			

〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)

担当教員は、長年臨床治療において運動療法の実践を行ってきた理学療法士である。本講義では、解剖学・運動学・生理学の知見に基づいた運動療法理論を学ぶとともに、科学的根拠に基づいた運動療法の実践方法を習得することを目的とする。

〔到達目標〕

- ・理学療法士において重要な部分を占める運動療法の定義・目的・対象・種類等を学習する。
- ・解剖学、生理学、運動学の知識を再確認する。

〔使用教材、参考文献等〕

- ・授業時配布資料
- ・南光堂 運動療法学テキスト

回	〔授業概要〕	到達目標(できるようになること)
1	オリエンテーション 運動療法概論・リスク管理	授業概要を理解・実践できるようにする
2	関節可動域訓練 総論	授業概要を理解・実践できるようにする
3	関節可動域制限に対する運動療法 1 上肢関節の理解とROMエクササイズ・ストレッチング ※実技のモビライゼーションは省く	授業概要を理解・実践できるようにする
4	関節可動域制限に対する運動療法 2 脊柱の理解とROMエクササイズ・ストレッチング ※実技のモビライゼーションは省く	授業概要を理解・実践できるようにする
5	関節可動域制限に対する運動療法 3 下肢関節の理解とROMエクササイズ・ストレッチング ※実技のモビライゼーションは省く	授業概要を理解・実践できるようにする
6	筋力・筋持久力低下に対する運動療法 1	授業概要を理解・実践できるようにする
7	筋力・筋持久力低下に対する運動療法 2	授業概要を理解・実践できるようにする
8	協調性低下に対する運動療法	授業概要を理解・実践できるようにする
9	姿勢アライメントに対する運動療法 1	授業概要を理解・実践できるようにする
10	姿勢アライメントに対する運動療法 2	授業概要を理解・実践できるようにする
11	バランス能力低下に対する運動療法	授業概要を理解・実践できるようにする
12	基本動作能力・歩行能力獲得のための運動療法	授業概要を理解・実践できるようにする
13	加齢による機能障害に対する運動療法	授業概要を理解・実践できるようにする
14	全身持久力低下に対する運動療法	授業概要を理解・実践できるようにする
15	期末テスト	これまでの授業を理解・実践できるかを確認のため実施

〔評価について〕

- ・出席
- ・小テスト
- ・定期テスト(期末テスト)

〔特記事項〕

各自、動きやすい服装で臨むこと。

2026年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	理学療法士科1部	学年	2	開講区分	後期	担当教員			
授業科目名	運動療法学	必修・選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	30(2)	授業回数	15

〔授業の学習内容と心構え〕

担当教員は、長年臨床治療において運動療法の実践を行ってきた理学療法士である。本講義では、解剖学・運動学・生理学の知見に基づいた運動療法理論を学ぶとともに、科学的根拠に基づいた運動療法の実践方法を習得することを目的とする。

〔到達目標〕

- ・前期運動療法学の知識、技術の確認
- ・運動療法を行う上での基礎的な考え方を理解し、総論的な運動療法技術/知識を身につける
- ・運動療法に必要な観察眼を養う

〔使用教材、参考文献等〕

- ・授業時配布資料
- ・南光堂 運動療法学テキスト

回	〔授業概要〕	到達目標(できるようになること)
1	後期のオリエンテーション 神経筋再教育の運動療法	授業概要を理解・実践できるようにする
2	軟部組織に対するアプローチ1 軟部組織モビライゼーション(上肢)	授業概要を理解・実践できるようにする
3	軟部組織に対するアプローチ2 軟部組織モビライゼーション(下肢)	授業概要を理解・実践できるようにする
4	軟部組織に対するアプローチ3 軟部組織モビライゼーション(体幹)	授業概要を理解・実践できるようにする
5	関節機能障害に対する運動療法 関節モビライゼーション1(上肢)	授業概要を理解・実践できるようにする
6	関節機能障害に対する運動療法 関節モビライゼーション2(下肢)	授業概要を理解・実践できるようにする
7	関節機能障害に対する運動療法 関節モビライゼーション3(体幹)	授業概要を理解・実践できるようにする
8	基本動作に対する運動療法 1 寝返り・起き上がり・立ち上がり動作訓練	授業概要を理解・実践できるようにする
9	基本動作に対する運動療法 2 寝返り・起き上がり・立ち上がり動作訓練	授業概要を理解・実践できるようにする
10	歩行に対する運動療法 歩行訓練	授業概要を理解・実践できるようにする
11	障害別治療 整形外科領域に対する運動療法	授業概要を理解・実践できるようにする
12	障害別治療 神経内科領域に対する運動療法	授業概要を理解・実践できるようにする
13	障害別治療 脳血管障害による運動麻痺に対する運動療法	授業概要を理解・実践できるようにする
14	障害別治療 スポーツ障害領域に対する運動療法	授業概要を理解・実践できるようにする
15	期末テスト	これまでの授業を理解・実践できるかを確認のため実施

〔評価について〕

- ・出席
- ・小テスト 40点
- ・期末テスト 60点

〔特記事項〕

- 金曜1・2限連続実施。
- 各自、動きやすい服装で臨むこと。

2026年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	理学療法士科Ⅰ部	学年	2	開講区分	前期	担当教員			
授業科目名	運動療法学実習Ⅰ	必修・選択	必修	授業形態	実技	時間数(単位)	30(1)	授業回数	15

〔授業の学習内容と心構え〕

担当教員は、長年臨床治療において運動療法の実践を行ってきた理学療法士である。本講義では、解剖学・運動学・生理学の知見に基づいた運動療法理論を学ぶとともに、科学的根拠に基づいた運動療法の実践方法を実技を通じて習得することを目的とする。

〔到達目標〕

- ・理学療法士において重要な部分を占める運動療法の定義・目的・対象・種類等を学習する。
- ・解剖学、生理学、運動学の知識を再確認する。

〔使用教材、参考文献等〕

- ・授業時配布資料
- ・南光堂 運動療法学テキスト

回	〔授業概要〕	到達目標(できるようになること)
1	オリエンテーション 運動療法概論・リスク管理	授業概要を理解・実践できるようにする
2	関節可動域訓練 総論	授業概要を理解・実践できるようにする
3	関節可動域制限に対する運動療法 1 上肢関節の理解とROMエクササイズ・ストレッチング ※実技のモビライゼーションは省く	授業概要を理解・実践できるようにする
4	関節可動域制限に対する運動療法 2 脊柱の理解とROMエクササイズ・ストレッチング ※実技のモビライゼーションは省く	授業概要を理解・実践できるようにする
5	関節可動域制限に対する運動療法 3 下肢関節の理解とROMエクササイズ・ストレッチング ※実技のモビライゼーションは省く	授業概要を理解・実践できるようにする
6	筋力・筋持久力低下に対する運動療法 1	授業概要を理解・実践できるようにする
7	筋力・筋持久力低下に対する運動療法 2	授業概要を理解・実践できるようにする
8	協調性低下に対する運動療法	授業概要を理解・実践できるようにする
9	姿勢アライメントに対する運動療法 1	授業概要を理解・実践できるようにする
10	姿勢アライメントに対する運動療法 2	授業概要を理解・実践できるようにする
11	バランス能力低下に対する運動療法	授業概要を理解・実践できるようにする
12	基本動作能力・歩行能力獲得のための運動療法	授業概要を理解・実践できるようにする
13	加齢による機能障害に対する運動療法	授業概要を理解・実践できるようにする
14	全身持久力低下に対する運動療法	授業概要を理解・実践できるようにする
15	期末テスト	これまでの授業を理解・実践できるかを確認のため実施

〔評価について〕	〔特記事項〕
<ul style="list-style-type: none"> ・出席 ・小テスト ・定期テスト(期末テスト) 	各自、動きやすい服装で臨むこと。

2026年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	理学療法士科Ⅰ部	学年	2	開講区分	後期	担当教員			
授業科目名	運動療法学実習Ⅰ	必修・選択	必修	授業形態	実技	時間数(単位)	30(1)	授業回数	15

〔授業の学習内容と心構え〕

担当教員は、長年臨床治療において運動療法の実践を行ってきた理学療法士である。本講義では、解剖学・運動学・生理学の知見に基づいた運動療法理論を学ぶとともに、科学的根拠に基づいた運動療法の実践方法を実技を通じて習得することを目的とする。

〔到達目標〕

- ・前期運動療法学の知識、技術の確認
- ・運動療法を行う上での基礎的な考え方を理解し、総論的な運動療法技術/知識を身につける
- ・運動療法に必要な観察眼を養う

〔使用教材、参考文献等〕

- ・授業時配布資料
- ・南光堂 運動療法学テキスト

回	〔授業概要〕	到達目標(できるようになること)
1	後期のオリエンテーション 神経筋再教育の運動療法	授業概要を理解・実践できるようにする
2	軟部組織に対するアプローチ1 軟部組織モビライゼーション(上肢)	授業概要を理解・実践できるようにする
3	軟部組織に対するアプローチ2 軟部組織モビライゼーション(下肢)	授業概要を理解・実践できるようにする
4	軟部組織に対するアプローチ3 軟部組織モビライゼーション(体幹)	授業概要を理解・実践できるようにする
5	関節機能障害に対する運動療法 関節モビライゼーション1(上肢)	授業概要を理解・実践できるようにする
6	関節機能障害に対する運動療法 関節モビライゼーション2(下肢)	授業概要を理解・実践できるようにする
7	関節機能障害に対する運動療法 関節モビライゼーション3(体幹)	授業概要を理解・実践できるようにする
8	基本動作に対する運動療法 1 寝返り・起き上がり・立ち上がり動作訓練	授業概要を理解・実践できるようにする
9	基本動作に対する運動療法 2 寝返り・起き上がり・立ち上がり動作訓練	授業概要を理解・実践できるようにする
10	歩行に対する運動療法 歩行訓練	授業概要を理解・実践できるようにする
11	障害別治療 整形外科領域に対する運動療法	授業概要を理解・実践できるようにする
12	障害別治療 神経内科領域に対する運動療法	授業概要を理解・実践できるようにする
13	障害別治療 脳血管障害による運動麻痺に対する運動療法	授業概要を理解・実践できるようにする
14	障害別治療 スポーツ障害領域に対する運動療法	授業概要を理解・実践できるようにする
15	期末テスト	これまでの授業を理解・実践できるかを確認のため実施

〔評価について〕

- ・出席
- ・小テスト 40点
- ・期末テスト 60点

〔特記事項〕

金曜1・2限連続実施。
各自、動きやすい服装で臨むこと。

2026年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	理学療法士科Ⅰ部	学年	2	開講区分	前期	担当教員			
授業科目名	物理療法学	必修・選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	30(2)	授業回数	15

〔授業の学習内容と心構え〕

担当教員は長年、医療機関において様々な疾患に対するリハビリテーションの実践に携わってきた理学療法士である。本講義では、実際の理学療法の現場でおこなわれる各種物理療法機器を実際に使用できるようになるために、基本原理と注意点、使用方法を説明し、実践練習をおこなうことを目的とする。

〔到達目標〕

- ・各種物理療法機器に関する基本的原理、禁忌と適応を理解し、説明できるようになる。
- ・実技において使用感、被使用感を体感し、他者に説明できるようになる。(実技は社会状況に応じて変更あり)
- ・操作練習を通じて、実施上の注意点を理解し、病院実習前に自主練習できるようになる。

〔使用教材、参考文献等〕

- ・「物理療法学」(医学書院) ・Teamsデータ配布

回	〔授業概要〕	月曜3限実施	到達目標(できるようになること)
1	4/1	オリエンテーション ～物理療法とはなにか～ 物理療法の基礎	授業の準備ができるようになる。学習内容の概略を説明できるようになる。
2	4/15	物理療法のための生理学・病態の理解 1	物理療法の背景にある基礎的な生理学的知識は何かを知り、説明できる
3	4/22	物理療法のための生理学・病態の理解 2	物理療法の背景にある基礎的な生理学的知識は何かを知り、説明できる。
4	4/29	(祝日開講) 温熱・寒冷療法の基礎	温熱・寒冷療法の生理的効果を違いを理解し、説明できる。
5	5/13	マッサージ療法(1)	マッサージ療法の基本的手技を実践し、対象者からのフィードバックを得る。(ハーフパンツ・Tシャツで参加)
6	5/20	マッサージ療法(2)	マッサージ療法の基本的手技を実践し、対象者からのフィードバックを得る。(ハーフパンツ・Tシャツで参加)
7	5/27	マッサージ療法(3)	マッサージ療法の基本的手技を実践し、対象者からのフィードバックを得る。(ハーフパンツ・Tシャツで参加)
8	6/3	温熱療法(1) 基礎と各論 1	温熱療法の種類・目的・生理学的効果を説明できる。各論としてホットパック・パラフィンについて理解し、説明できる。
9	6/10	温熱療法(2) 各論 2	温熱療法の各論として、赤外線・極超短波療法の禁忌と適応について理解し、説明できる。
10	6/17	寒冷療法(1) 基礎と各論 1	寒冷療法の種類・目的・生理的効果を説明できる。各論としてアイスパックについて理解し、説明できる。
11	6/24	寒冷療法(2) 各論 2	寒冷療法の各論として、コールドパック、ごく寒禁忌と適応について理解し、説明できる。
12	7/1	温熱療法と寒冷療法	これまでに学んだことを生かして、物理的刺激が生体に与える効果を体感する。(ハーフパンツ・Tシャツで参加)
13	7/8	水治療法	水治療法の生理的効果、禁忌と適応について理解し、説明できる。
14	7/15	(祝日開講) 予備・国家試験問題演習	前期に学習した内容の補足と国家試験問題演習
15	7/22	前期の振り返りと期末試験(筆記)	前期に学習した知識を確認する

〔評価について〕

評価は〔筆記試験〕〔小テスト・確認レポート〕の合算とする。〔筆記試験〕(期末に実施)(70点),〔小テスト・確認レポート〕計30点の合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。社会情勢(感染症状況)に応じて変更となる場合があります。

〔特記事項〕

毎授業においてノートをとること。MicrosoftTeams上にアップされた資料を閲覧できるように、タブレット・ノートPCを推奨する(スマホでは見にくい可能性あり)。→紙資料配布はしません。
実施内容は社会情勢(感染症状況)に応じて変更となる場合がある。
学内でおこなう小テストはスマホでの受験は禁止とする

2026年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	理学療法士科I部	学年	2	開講区分	後期	担当教員			
授業科目名	物理療法学実習	必修・選択	必修	授業形態	実技	時間数(単位)	30(1)	授業回数	15
〔授業の学習内容と心構え〕						中島 圭吾			

担当教員は長年、医療機関において様々な疾患に対するリハビリテーションの実践に携わってきた理学療法士である。本講義では、実際の理学療法現場でおこなわれる各種物理療法機器を実際に使用できるようになるために、基本原理と注意点、使用方法を説明し、実践練習をおこなうことを目的とする。

〔到達目標〕

- ・各種物理療法機器に関する基本的原理、禁忌と適応を理解し、説明できるようになる。
- ・実技において使用感、被使用感を体感し、他者に説明できるようになる。
- ・操作練習を通じて、実施上の注意点を理解し、病院実習前に自主練習できるようになる。

〔使用教材、参考文献等〕

- ・「物理療法学」(医学書院) ・ Teamsデータ配布

回	〔授業概要〕	到達目標(できるようになること)
	木曜3限実施 (予定は変更の場合あり)	
1	前期 期末テスト解説 牽引療法	牽引療法の生理的効果、禁忌と適応について理解し、説明できる。
2	電気療法1 基礎/T E S ・ N M E S ・ T E N S	電気療法の基本原理を理解し、N M E S と T E N S の目的・違いを説明できる。
3	電気療法2 F E S、干渉波	低周波・干渉波など、電気療法の操作方法を知り、禁忌と適応を説明することができる。
4	電気療法3	その他電気療法の操作方法を知り、禁忌と適応を説明することができる。
5	電気療法体験実習	電気療法を体験し、被使用感・効果の違いを説明できる。 (ハーフパンツ・Tシャツで参加)
6	光線療法	光線療法の基本原理を知る。ランバード余弦則、逆2乗の法則に付き、計算できるようになる。
7	リスク管理について・中間レポート	物理療法実習時のリスク管理について理解し、実践のために基礎知識を身につける。
8	バイオフィードバック/国家試験問題演習	バイオフィードバックの種類、原理、目的を理解し、説明できる。国家試験問題を通じて理解を深める。
9	超音波療法1	超音波療法の原理・使用方法の概要を理解し、説明できる。
10	超音波療法2	超音波機器の設定方法、設定値の意味を理解し、説明できる。禁忌と適応を理解し、説明できる。
11	物理療法を用いた実験について文献抄読と実験及び発表課題通知、実験準備	基礎的な物理療法に関する学術論文を独自に読むことができるようになる。グループ毎に実験内容を相談・決定する。
12	物理療法実験1 実験	グループ毎に実験を実施し、計測をおこなう。
13	物理療法実験2 実験結果まとめ・発表準備	実験結果のまとめ、発表準備をおこなう。
14	発表会	各グループ毎に発表・フィードバックをおこなう。
15	後期の振り返りと期末試験(筆記)	後期に学習した知識を確認する。筆記試験によって理解を確認する。

〔評価について〕

評価は [中間レポート] [筆記試験] [小テスト・確認レポート] の合算とする。 [中間レポート] (20点) [筆記試験] (期末に実施) (60点), [小テスト・確認レポート] 計20点の合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。社会情勢(新型コロナ)に応じて変更となる場合があります。

〔特記事項〕

毎授業においてノートをとること。Microsoft Teams上にアップされた資料を閲覧できるように、タブレット・ノートPCを推奨する(スマホでは見にくい可能性あり)。→本年度より紙資料配布はしません。実施内容は社会情勢(新型コロナ)に応じて変更となる場合がある。

2026年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	理学療法士科Ⅰ部	学年	2	開講区分	後期	担当教員				
授業科目名		必修・選択	必修	授業形態	演習	渡辺 卓馬	時間数(単位)	30(2)	授業回数	15

〔授業の学習内容と心構え〕

担当教員は、長年、リハビリテーション病院および介護分野においてリハビリテーションの実践に携わってきた理学療法士である。本講義では、義肢学及び装具学の概要から応用まで学ぶことを目的とする。併せて演習などを通じ、将来臨床にて義肢・装具についての対応ができるよう基礎的な知識と実践力を身に付けることを目的とする。

〔到達目標〕

装具や義肢について、聞き慣れないキーワードや見たことのない装具や義肢の図などを見て、名前・働きが説明できるようになる事がファーストステップ。次に外傷や障害に対してどのような装具・義肢を使用するかわかるようになるのがセカンドステップ。最終的には、国家試験の問題を解き、実習現場でその知識が役立つようになる。

〔使用教材、参考文献等〕

解剖学(医歯薬出版)

回	〔授業概要〕	到達目標(できるようになること)
1	オリエンテーション・装具総論・装具を理解するための運動学	装具ってどんな目的で使用され、装具の分類やAAOS分類で用いられる記号を覚えよう。装具の役割、働きを運動学と合わせて考える。装具での歩行と歩行周期。
2	短下肢装具 (AFO) ・長下肢装具 (KAFO) 小テスト (第1回目分)	長・短下肢装具の種類を理解する。足関節の機能と装具の適合を理解する。歩行における長・短下肢装具の動きを理解する。
3	靴型装具 (orthopedic shoes) ・下肢装具のチェックアウト 小テスト (2~3回分)	靴の基本構造と機能を理解する。靴型装具の種類を理解する。
4	上肢装具・上肢装具のチェックアウト 小テスト	上肢装具の目的を理解する。上肢装具の種類と特徴を理解する。
5	頸部体幹装具・頸部体幹装具のチェックアウト 小テスト	頸部体幹装具のチェックアウトの流れと項目について理解する。頸部体幹装具装着時の注意点について理解する。
6	疾患別の装具 小テスト	疾患別の装具を学ぶ
7	装具編 確認テスト	1~6回分のまとめテスト
8	切断の原因と治療・切断部位と切断術	切断の原因となる疾患についての基本的な知識、治療方法、理学療法について理解する。
9	切断者の評価①・② 全体的評価・断端評価 中島先生の授業に変更	切断の理学療法評価の目的を理解する。術前・術後の適切な理学療法評価の選択を理解する。術前・術後の理学療法評価の実施方法を理解する。
10	断端管理法 小テスト (10/21~11/4まで) 駒崎さん 3・4限	切断後の断端の管理について理解する。
11	義足 足継手・下腿義足ソケット 小テスト	義足の足継手について理解する。症状に適した足継手と足部について理解する。下腿切断の断端の特徴を理解する。下腿義足ソケットの形状と体重支持部、懸垂装置を理解する。
12	義足 股義足・膝義足・サイム義足・足部義足 小テスト	各義足のそれぞれの適応と特徴を理解する。
13	義足 大腿義足ソケット 小テスト	大腿義足の概要とソケットの種類と特徴と機能を理解する。ソケットの開発の流れを歴史の変遷を理解する。
14	義足歩行の特徴・立位歩行練習 小テスト	義足歩行の特徴の概念とその理論背景を理解する。
15	義足編 確認テスト	8~14回分のまとめテスト

〔評価について〕	〔特記事項〕
装具編 確認テスト 25点・小テスト25点 義肢編 確認テスト 25点・小テスト25点	

2026年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	理学療法士科Ⅰ部	学年	2	開講区分	前期	担当教員			
授業科目名		必修・選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	30(2)	授業回数	15
		長岡 洋平							

〔授業の学習内容と心構え〕

担当教員は、長年、リハビリテーション病院および介護分野においてリハビリテーションの実践に携わってきた理学療法士である。
本講義では、疾患・年齢・能力に応じた、ADL支援機器の選択、基本動作、移動動作介助法・指導方法を学ぶことを目的とする。

〔到達目標〕

理学療法士として日常生活活動(ADL)の重要性を理解する。本講義としてはADL評価の評価項目・目的・評価方法を学ぶ。日常生活活動障害に対する援助方法、ADL支援機器の選択、基本動作、移動動作介助法・指導方法を講義および実技にて学習する。

〔使用教材、参考文献等〕

日常生活活動学・生活環境学第5版 医学書院 P T・O Tビジュアルテキスト ADL 羊土社

回	〔授業概要〕	到達目標(できるようになること)
1	ADL総論	日常生活活動(ADL)の概念・定義・範囲・QOLを理解し説明ができる。
2	ICF	ICIDH/ICFの違いを理解し説明できる。
3	日常生活活動の目的	日常生活活動評価の目的を理解し説明ができる。
4	日常生活の評価の実際	Barthel Indexの評価を理解し実践できるようになる。
5	日常生活の評価の実際	FIMの評価を理解し実践できるようになる。
6	日常生活の評価の実際	FAI評価方法を理解し実践できるようになる。
7	杖 補助具指導方法	杖・歩行器の種類を理解し患者の状態によって判断できるようになる。(屋外授業あり)
8	松葉杖の種類・指導方法	松葉杖の種類を理解し患者の状態によって判断できるようになる。(屋外授業あり)
9	車椅子	車椅子の各部品名称、車椅子の種類を学ぶ。車いすの自走、介助での操作方法を理解する。(屋外授業あり)
10	脳血管障害(片麻痺)に対して必要とされるADL	障害像の把握、評価とプログラム作成について理解する。必要とされるADLを学ぶ
11	脊髄損傷(四肢麻痺・対麻痺)に対して必要とされるADL	障害像の把握、評価とプログラム作成について理解する。必要とされるADLを学ぶ
12	自助具について	臨床の場で必要とされる自助具を学ぶ
13	自助具作成(ソックスエイド・スプーン等)	自分で作製できる自助具を作成し、使用してみる
14	福祉機器	さまざまな福祉機器を知り使用方法を学ぶ
15	期末テスト	筆記試験

〔評価について〕

評価はTeamsで試験で行う。
50問の試験を実施
小テスト50%
期末テスト50%

〔特記事項〕

2026年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	理学療法士科Ⅰ部	学年	2	開講区分	後期	担当教員			
授業科目名		必修・選択	必修	授業形態	実技	時間数(単位)	30(1)	授業回数	15
		長岡 洋平							

〔授業の学習内容と心構え〕

担当教員は、長年、リハビリテーション病院および介護分野においてリハビリテーションの実践に携わってきた理学療法士である。本講義では、疾患・年齢・能力に応じた、ADL支援機器の選択、基本動作、移動動作介助法・指導方法を学ぶことを目的とする。また、各疾患(脳卒中片麻痺、脊髄損傷、パーキンソン病、関節リウマチ、切断)に応じたADL練習・指導、介助方法を実技を通じて学び、車椅子、福祉機器の扱い方、調整方法を身に付けることを目的とする。

〔到達目標〕

疾患の特徴を理解し一人一人の対象者の能力に適した介助方法、指導方法を実践できるようになる。

〔使用教材、参考文献等〕

回	〔授業概要〕	到達目標(できるようになること)
1	基本動作 ポジショニング	基本動作 種類(静的基本動作 動的基本動作)を知る。 静的基本動作を理解し、ポジショニングを実施する。
2	基本動作 寝返りの基本動作 背臥位→服臥位、背臥位→側臥位	ねがえりの種類 様々な方法 自立のためのポイント、練習方法を学び実践できる。
3	基本動作 起き上がりの基本動作	起き上がり～端座位までトレーニング方法、介助方法を学び実践する。
4	基本動作 立ち上がりの基本動作	立ち上がり動作のトレーニング方法、介助方法を理解し実践する。
5	基本動作 移乗の基本動作	ベッド～車椅子までの移乗動作 トレーニング方法、介助方法を学び実践する。
6	疾患別 脳血管疾患の方の 寝返り動作 起き上がり動作 端座位まで	病態を理解し、脳血管障害の方の寝返り～起き上がり～端座位 トレーニング方法、それぞれの介助方法を実践する。
7	疾患別 脳血管疾患の方の 立ち上がりから移乗動作	脳血管障害の方のトレーニング方法、それぞれの介助方法、 を実践する。
8	疾患別 脳血管疾患の方の歩行	脳血管障害の方の歩行のトレーニング方法、様々な介助方法を実践する。
9	疾患別 脊髄損傷の方の 寝返り動作 起き上がり動作 端座位	脊髄損傷(四肢麻痺・対麻痺)の方の起き上がり～端座位まで 指導方法、介助方法を実践する。
10	疾患別 脊髄損傷の方の 移乗動作、移動動作	脊髄損傷の方のト移乗。移動方法を理解し、指導方法、中等度介 助方法、介助方法を実践する
11	パーキンソン、関節リウマチ、人工関節置換術後の方 の起き上がり動作(指導・介助方法・運動療法)	それぞれの疾患に対するトレーニングし方法、介助方法を理解 し実践する
12	パーキンソン、関節リウマチの方の 立ち上がり動作(指導・介助方法・運動療法)	それぞれの疾患に対するトレーニングし方法、介助方法を理解 し実践する
13	神経筋疾患、パーキンソン、関節リウマチの方の 移乗動作(指導・介助方法・運動療法)	それぞれの疾患に対するトレーニングし方法、介助方法を理解 し実践する
14	パーキンソン、人工関節置換術後、関節リウマチの方の歩 行指導 介助歩行 歩行能力獲得の為の運動療法	それぞれの疾患に対する 歩行のトレーニングし方法、介助方法を理解し実践する
15	期末テスト	実技テスト

〔評価について〕

レポート提出および期末試験はTeamsが筆記試験
の合計点
レポート50点
筆記試験50点

〔特記事項〕

2026年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	理学療法士科Ⅰ部	学年	2	開講区分	後期	担当教員			
授業科目名		必修・選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	15(1)	授業回数	8
地域リハビリテーション論									

〔授業の学習内容と心構え〕

担当教員は長年、総合病院において様々な疾患に対するリハビリテーションの実践に携わってきた理学療法士である。本講義では、地域リハビリテーション活動支援事業と地域包括ケアシステムの概要を理解する。そして、介護予防事業の理解とその実践方法を学ぶことを目的とする。

〔到達目標〕

・地域リハビリテーション活動支援事業と地域包括ケアシステムの概要を理解する。
 ・行政との連携による介護予防対策の理解とその実践方法を学ぶ。
 学療法士としての視野を広げ、新しい職域の開拓に繋げる。 ・理

〔使用教材、参考文献等〕

・シンプル理学療法学シリーズ 地域リハビリテーション学テキスト 改訂第3版 南江堂
 ・授業時資料配布

〔準備学習・時間外学習〕

レポート課題は、授業時間内に終わらなかった場合、期限内（基本は翌日まで）に提出できるよう努めてください。

回	〔授業概要〕	到達目標(できるようになること)
1	オリエンテーション	人口動態と現代社会が抱える問題について学び、地域包括ケアシステムでの理学療法士の役割を知る。
2	介護予防と地域リハビリテーション活動支援事業	リハビリテーション活動支援事業について学ぶ（フレイル・体力測定会）。
3	介護予防・健康づくり、住民主体の通いの場、生きがい推進施策	リハビリテーション活動支援事業について学ぶ（リハ専門職・行政両側面からの提言）。 *グループワーク
4	地域包括ケアシステムにおける地域ケア会議の重要性	模擬的な地域ケア会議（個別事例）を行い、多職種連携の重要性と理学療法士の専門性を学ぶ
5	理学療法士による介護保険サービスのマネジメント	理学療法士がマネジメントする介護サービス（デイケア）では、どんなスキルが必要かを学ぶ。
6	地域リハビリテーション事業の立案	理学療法士の知識や専門性を活かした地域・社会問題に対する事業企画を行う。 *グループワーク
7	期末テスト	テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。
8	発表会・地域リハビリテーションの展望と理学療法士の職域	第6回で企画した事業をグループ毎に発表し、理学療法士の職域拡大と制約について議論する。
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

〔評価について〕

評価はレポートと筆記試験で行う。
 レポート：60点（第1～6回実施予定） *各10点
 筆記試験：40点
 評価は学則規定に準ずる。

〔特記事項〕

毎授業において重要事項については下線を引いたりメモをとること。
 グループワークでは、積極的に意見交換してほしい。

2026年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	理学療法士科Ⅰ部	学年	2	開講区分	後期	担当教員			
授業科目名		必修・選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	15(1)	授業回数	8
〔授業の学習内容と心構え〕									
<p>担当教員は長年、総合病院において様々な疾患に対するリハビリテーションの実践に携わってきた理学療法士である。本講義では、地域における理学療法士の役割を理解し幅広い働き方を学ぶ。また、多職種連携の重要性を知り、理学療法士としての専門性を学ぶことを目的とする。</p>									
〔到達目標〕									
<p>・地域における理学療法士の役割を理解し幅広い働き方を学ぶ。 ・地域リハビリテーションにおける多職種連携の重要性を学ぶ。 ケースを通して理学療法士としての専門性を学び基礎や実習の重要性を理解する。</p>									
〔使用教材、参考文献等〕					〔準備学習・時間外学習〕				
<p>・シンプル理学療法学シリーズ 地域リハビリテーション学テキスト 改訂第3版 南江堂 ・授業時資料配布</p>					<p>レポート課題は、授業時間内に終わらなかった場合、期限内（基本は翌日まで）に提出できるよう努めてください。</p>				
回	〔授業概要〕				到達目標(できるようになること)				
1	オリエンテーション・総論				地域包括ケアシステムの中の理学療法士の役割を学ぶ				
2	地域理学療法 医療保険～介護保険				急性期～回復期～生活期リハビリテーションの理学療法士の職域や役割を学ぶ				
3	地域理学療法 介護保険				介護保険を利用したリハビリテーションの中の理学療法士の職域や役割を理解する				
4	地域リハビリテーションにおける多職種連携				地域リハビリテーションを完遂するための多職種連携の重要性を学ぶ				
5	在宅生活におけるリスクマネジメントと環境調整				在宅生活を支援することの意味とリスク管理の重要性を理解する				
6	在宅におけるリハビリテーションサービスの実際（介護）				実際の理学療法士の働き方をケース（介護保険）を通して学ぶ				
7	在宅におけるリハビリテーションサービスの実際（医療）				実際の理学療法士の働き方をケース（医療保険）を通して学ぶ				
8	期末テスト				テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。				
9									
10									
11									
12									
13									
14									
15									
〔評価について〕					〔特記事項〕				
<p>評価はレポートと筆記試験で行う。 レポート：50点（第1～5回実施予定）＊各10点 筆記試験：50点 評価は学則規定に準ずる。</p>					<p>毎授業において重要事項については下線を引いたりメモをとること。 グループワークでは、積極的に意見交換してほしい。</p>				

2026年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	理学療法士科Ⅰ部	学年	2	開講区分	前期	担当教員			
授業科目名	生活環境論	必修・選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	30(2)	授業回数	15

〔授業の学習内容と心構え〕

担当教員は、長年、リハビリテーション病院および介護分野においてリハビリテーションの実践に携わってきた理学療法士である。本講義では、障害を持つ方・疾病を有する方が円滑に日常生活を遂行するために、どのような生活環境要因が必要になるかを学ぶ。また、理学療法士として対象者及び家族の立場に寄り添い、何を支援すれば健やかな生活を送ることができるかを考えられる思考力を身に付けることを目的とする。

〔到達目標〕

1. 対象者、家族の生活環境の現状を調査し、問題点の抽出、生活上ののための提案ができるようになる。
2. 理学療法士として医学的理論と技術だけでなく、穏やかで円滑な生活遂行を支援するために多面的な生活環境要因との関連性を理解する。

〔使用教材、参考文献等〕

生活環境学テキスト（南江堂）

回	〔授業概要〕	到達目標(できるようになること)
1	・オリエンテーション ・生活環境学とは	生活とは、環境とは、さらに生活環境向上に必要な法律を理解し説明できるようになる。
2	・生活環境学の評価生活環境整備に関する法的制度1	社会保障制度について学び説明ができるようになる
3	・生活環境学の評価生活環境整備に関する法的制度2	住生活基本法、介護保険を学び説明ができるようになる。
4	・生活環境整備の評価	生活環境学時期の手順を理解し説明できるようになる。
5	・環境整備の進め方（プロセス）	生活環境の問題点を抽出できるようになり、改善策を考えられるようになる。
6	・生活環境整備の住宅改修	住宅の機能との関係を理解し心理的影響についても理解する。住宅改修の流れについて理解し説明ができる。
7	・生活環境整備の基本 ① 段差・スペース・床材	段差の種類と大きさに応じた解消方法、杖、車椅子の通行・回転に必要なスペース、床材の種類と特長について学び説明ができる。
8	・生活環境整備の基本 ② 手すり・建具	1. 生活環境整備における手すりの取り付けの考え方を理解する。 2. 生活環境整備における建具の考え方を理解する。
9	・生活環境整備の基本 ③ 玄関・アプローチ	1. 道路（門）から玄関までのアプローチについて説明ができる。 2. 玄関周囲のスペースごとの用語や実数値について説明ができる。
10	・生活環境整備の基本 ④ 廊下・階段	廊下・階段の標準的寸法について理解する。 福祉用具の活用について理解と具体的な方法について理解する。
11	・生活環境整備の基本 ⑤ 浴室・脱衣所・トイレ	浴室 脱衣所 トイレの環境整備の意義、目的、身体機能レベルに応じた環境整備を説明する
12	・生活環境整備の基本 ⑥ 台所・居間・寝室	台所・居間・寝室の環境整備の意義、目的、身体機能レベルに応じた環境整備を説明する。居間と寝室に適した照明、床、スイッチ、特殊寝台等について説明ができる
13	・生活を支える福祉・リハ関連用具	地域環境と公共交通について学び次回の実施調査について考える
14	・地域を支える福祉機器調査（西葛西）	グループを作り 学校・店舗 駅周囲 バス、ロータリーなどにおける地域環境・公共交通調査する。
15	14回の調査結果発表	各自発表 10分程度

〔評価について〕

試験による評価は実施しない。
課題提出による結果
個人課題・グループ発表

〔特記事項〕

2026年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	理学療法士科Ⅰ部	学年	2	開講区分	後期	担当教員			
授業科目名	実習教育Ⅰ	必修・選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	30(2)	授業回数	15

〔授業の学習内容と心構え〕

担当教員は長年、総合病院において様々な疾患に対するリハビリテーションの実践に携わってきた理学療法士である。本講義では、臨床現場における理学療法士の役割を理解し・職業理解を深める。そして、理学療法士としての心構えを養うとともに、対象者に対して、検査・測定を安全に実施できる知識を身に付けることを目的とする。

〔到達目標〕

実習に出る、社会参加を行うことに関して意識付ける。
 医療人としてのマナーを身に着ける。
 自身の課題を新たにみつける。

〔使用教材、参考文献等〕

回	〔授業概要〕	到達目標(できるようになること)
1	オリエンテーション	実習において求められることを理解する
2	見学実習において必要な知識	見学実習を行うにあたり必要な知識を再確認する。
3	ROM-T	関節可動域検査についての再確認
4	MMT	MMTに対する再確認
5	中枢神経障害 評価	Brs SIASに関する再確認
6	認知症患者とのかかわりかた。その評価	認知症に対する理解を深める。
7	筋緊張検査、深部腱反射	筋緊張検査、深部腱反射の再確認
8	中間テスト	
9	バイタル測定、肢長周径	バイタル測定、肢長周径の再確認
10	整形外科的テスト	SPテストの再確認
11	感覚検査、歩行動作能力検査	感覚検査、転倒リスク検査の再確認
12	疾患に対する基礎理解 (内部障害)	内部障害についての基礎理解応用
13	疾患に対する基礎理解 (整形疾患編)	整形疾患に対しての基礎を理解する
14	疾患に対する基礎理解 (脳卒中編)	脳卒中に関しての基礎を理解する。
15	期末テスト	

〔評価について〕

評価は実技試験で行う。
 実技試験は第1回実技確認試験(50点)と第2回実技確認試験(50点)の合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。

〔特記事項〕

毎授業において重要事項については下線を引いたりメモをとること。
 必要に応じ配布プリント、資料の配信による授業を行なう。